

イワツバメの生態習性の基礎的観察

米小其・劉学建・周毅・牛艶東

湖南師範大学生命科学学院

訳 福井和二

摘要；2004年5月から2006年7月の間湖南省衡山においてイワツバメ (*Delichon dasypus*) の生態習性の基礎的な観察を行なった。この鳥は当地では夏鳥として、毎年4月初旬に渡来し、9月下旬に渡去する。雌雄共同で軒下に営巣し、毎年2回繁殖する。第1回目の1巣卵数は3~5卵、第2回目は2~3卵、孵化率は84.6%であった。雛は晩成型で、雌雄共同で育雛し、空中で昆虫を捕食する。

イワツバメ (*Delichon dasypus*) はスズメ目ツバメ科に属し、世界に3つの亜種がある¹⁾。本研究の対象は西南亜種 (*D. d. cashmeriensis*) で、わが国では夏鳥である。現在ツバメ科の他の種に対する習性研究は多いが^{2~7)}、イワツバメに関する報告はない。筆者は2004年5月から2006年7月の間、イワツバメの生態習性の基礎的な観察を行なった。

1. 観察地の概要と方法

衡山の場所は湖南省中南部で、最高峰の祝融峰^{スロフン}は標高1290m。自然環境は人工林が多く、その他自然の二次林、灌木叢、草地、耕作地などである。衡山は中亜熱帯に属し、湿潤な季節風気候で、山頂の年平均気温は11.2°C、年平均降水量は2372mm、無霜期間180日、日照時間1568時間、祝融山庄における3棟の観察点を選択し、営巣、産卵、抱卵、育雛等の行動を連続的に観察し、巣の大きさ、巣間距離、地面からの高さ、並びに食性などを調べた。

2. 結果

2.1 渡りの動態 過去2年の連続観察で、イワツバメは4月2日~10日の間に衡山に渡来し、9月22日~29日の間に渡去し、約170日滞在する。

2.2 巣および営巣行動 イワツバメは雌雄共同で軒下に営巣し、巣材は主に泥、内側の敷物として藓苔、枯れ草の茎、綿、および少量の枯葉、羽毛、獣毛、草の根、塗装の被膜などが用いられている。巣は半球型で開口部が1ヵ所ある。18巣の巣間距離は0mから最大3m。巣の大きさは経12~14.7cm×11~14.2cm、高さ8~13cm、巣の厚さは1~1.5cm、地面からの高さは2~20mであった。イワツバメは古巣を利用する習性があり、2004年には68個の巣のうち63個が古巣を利用しており、92.6%を占めた。巣作りに要する時間は8~11日であった。

2.3 繁殖 2005年10対のイワツバメが年2回繁殖し、第1回が4月中旬から6月中旬にかけ繁殖し、毎巣3~5卵、平均4.3卵、第2回は6月上旬から8月上旬にかけ、毎巣2~3卵、平均2.2卵であった。卵は白色、大きさは17.2~19.2mm×11.8~13.1mm、重量は1.1gであった。雌雄交代で抱卵し、期間は12~14日、12巣、52卵観察し、44羽孵化、孵化率は84.6%であった。雛は晩成、雌雄共同で育雛し、19~22日で巣立ちした。

2.4 食性 頸部狭窄法で5羽の雛の食性を調べたところカ (*Aedes* sp)、イエバエ (*Musca domestica*)、シロアリ (*Odontotermes* sp) が5羽の雛全てから得られ、この外、メイガ (*Tryporyza incertulas*)¹⁾、アブ (*Tabanus* sp)、ツマグロヨコバイ (*Nephotettix cincticeps*)、カメムシ (*Cletus* sp) 等が頻繁に見られた。

2.5 行動 イワツバメと日照には密接な関係がある。日の出20分前になると続々とすべての個体が行動を開始する。6:00~8:00時と16:30~18:30時の間が最も活発に行動し、給餌

回数は18~24回/h, 平均23回/hで, その他の時間は比較的活動が低く, 給餌も6~15回/h, 平均8回/hであった。午後は大部分の個体が巣を離れ, 周辺で行動していた。帰巢前は巣の近くで群飛し, 日没後10分ですべての個体が帰巢する。

3. 討論

イワツバメは貴州省では標高1600~2400m⁹⁾, 北京では1900m⁹⁾に分布しているが, 今回発見されたイワツバメの繁殖地は標高992mで, わが国のイワツバメの繁殖地では最も標高の低い繁殖地である。《中国鳥類志》¹⁾に記載されているとおり, 今回の調査で年2回繁殖することが確認された。

訳注

- *1 メイガ (*Tryporyza incertulas*); 中国の辞海(生物冊)によると, *Tryporyza incertulas* は三化螟とあり, 稲の害虫とされている。この学名で和名の検索はできなかった。